

O.S.P. Journal

OSPREY SPIRITUAL PERFORMER

霞ヶ浦スペシャル

日本最大といっても
過言ではない広大なフィールド
カスミ水系には夢がいっぱい。
そんな“夢”を掴むルアーを
O.S.P.では
たくさん取り揃えています!!

霞ヶ浦へ行こう!!



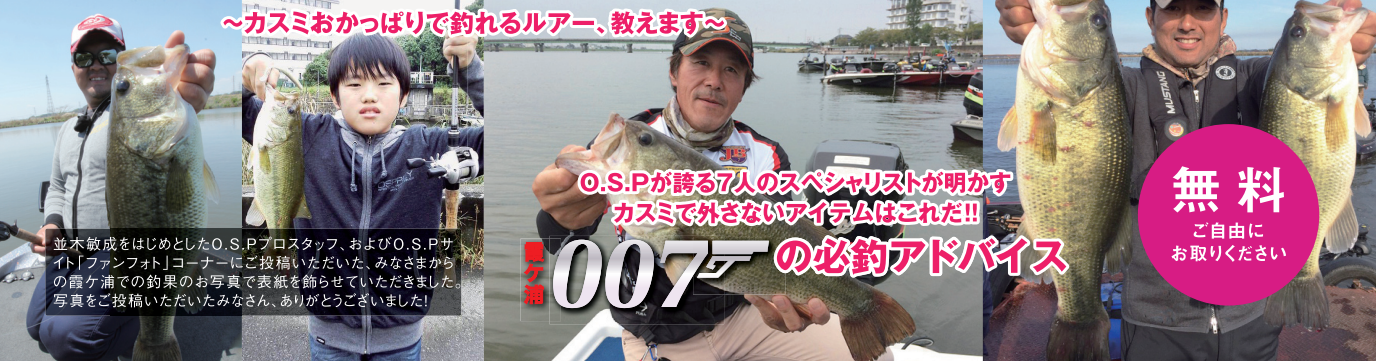
さまざまな表情を持ち合わせている
日本最大級の広大なフィールド。
～並木敏成が語る、カスミの魅力～



カスミおかつぱりで欠かせないルアーを川村光太郎が大暴露

Kotaro's Recommend

～カスミおかつぱりで釣れるルアー、教えます～



O.S.P.が誇る7人のスペシャリストが明かす
カスミで外さないアイテムはこれだ!!

007の必釣アドバイス

無料

ご自由に
お取りください

並木敏成をはじめとしたO.S.P.プロスタッフ、およびO.S.P.サイト「ファンフォト」コーナーにご投稿いただいた、みなさまからの霞ヶ浦での釣果のお写真で表紙を飾らせていただきました。写真をご投稿いただいたみなさん、ありがとうございました!

1 ブリッツシリーズ

～多彩なモデルを巧みに使い分けよう～

まずはブリッツシリーズ。例えば石積みなどではタイニーブリッツの3モデル、そのすべてで釣れる。これはボート、おかつぱりを問わず。この時期の霞ヶ浦水系は先述したように水路や流入河川にバスが入ってくるので、その護岸をクランクで並行巻きしていくと、エサを追っているファットで引きの強いバスが釣れる。だから、実はこの時期のカスミでのおかつぱりって大好きなんだ。基本はオリジナルのブリッツを使用し、濁りが入っているときはブリッツマックスにチェンジ。水が澄んでいたり食っているエサが小さいときはタイニーブリッツおよびタイニーブリッツMR。水門まわりや消波ブロックの際、水路内の深くなっている溜まりではタイニーブリッツDRが定番になる。助走距離を必要とせず急角度で潜り、それでいて根掛かりしにくいのはうれしいよね。



9月のカスミで外せない

並木敏成 厳選の O.S.P Lures

2 O.S.Pブレードジグ

～クランクでは釣れないサカナを獲る～

もうひとつはO.S.Pブレードジグ。この霞ヶ浦水系でボート、おかつぱりを問わずよく釣れるアイテムだと自信をもって言い切れる。この夏、自分も霞ヶ浦水系においてクランクベイトでは釣れない、他の金属製ブレードのブレードジグカテゴリーでも食わないバスに対して、高い実績を誇っている。ボート、おかつぱりを問わずによく釣れるアイテムで、これまでクランクベイトやスピナーベイトを通していたようなスポットで、これを引き倒してみてもほしい。1/4オンスは浅いところ、水深が50cm以上あるようなところ、もしくは速巻きでつかうのであれば3/8オンスがおすすめだ。



3 O.S.Pジグ01+ドライブシャッド3.5in

～撃ってよし、巻いてよしの万能アイテム～

今年、生誕10周年を迎えるO.S.Pジグ01の5gもしくは7gに、ドライブシャッド3.5インチ。このセットは撃ってよし、巻いてよし。秋のこの水系で、非常に実績が高いセットだ。フロロカーボンの14ポンド、ときに16ポンドでアンヤブッシュ、護岸などを巻いてくる。要所で中に叩き込んでいく。またボラのようなベイトフィッシュを追っているときは、マッチ・ザ・ベイトとしての効果も高い。重いウエイトでシャッドテールが動くのは当たり前だが、このドライブシャッドは5gといった軽いジグでもフォーリング中やスローリトリーブでテールが軽快に動いてくれるため、霞ヶ浦水系のようなハイプレッシャーで、かつストライクゾーンが狭いフィールドで効果的。限られたわずかな距離の中で超ゆっくり動かしつつ、その間でしっかり誘い続けなくてはならないようなとき、非常に心強い頼れる存在である。



いろんな表情を持っている広大なフィールド。 そのほとんどを攻め切ることができるのは アメリカにも類を見ない水系だね。

冬でも有望なエリアを丁寧に正しく釣れば、自ずと結果はついてくる

日本で最も広いバスフィールドといえば琵琶湖だろうけれど、霞ヶ浦水系だって負けちゃいない。

水門をひとつ隔てた先に無限に広がる水系を鑑みれば間違いなく日本一のフィールドだと言えるだろう。

そんないろんな表情を持っているこの水系のほとんどを、ボートとショア、その両方から攻めることができる。

これってアメリカでも類を見ないフィールドだよな。

例えばルイジアナデルタとか、とても広大なフィールドがある。

もちろん霞ヶ浦水系とは比べ物にならない広さではあるんだけど、その多くをボートなり、ショアなりで攻められるかと言うとそうじゃない。

湿地帯や浅いところがあって、ボートでの進入は不可能なところがある。

では、おかつぱりで入れるのかというところではない。

アリゲーターが存在するような林を抜けなくてはならなかったり、ベジテーションが行く手を阻む箇所ばかりだ。

しかし霞ヶ浦水系ではそういったケースはまれで、むしろそのほとんどを攻めることができ、ルアーを入れようとすれば入れられる。

それがこの水系の最大の魅力であり、夢中になれる理由かな。

そして基本的にはシャローウォーターの釣りでもいいところもまたおもしろい。

難しいと言われる場合もあるけれど、結果が出やすいよね。

湖のど真ん中や深いところにバスが移動して手に負えないこともなく、冬のように釣りにくいシーズンであっても、

そのときに有望なシャローエリアで丁寧に正しい釣りを展開すれば自ずと結果がついてくるところもまた、この水系の魅力。

そんな日本最大の水域でのバスフィッシングを、ぜひ堪能してもらいたい。

T. Namiki
が解説!!

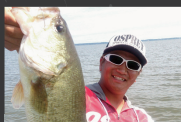
9月の霞ヶ浦水系
ワンポイントアドバイス

霞ヶ浦水系には護岸や消波ブロック、リップラップや杭、そして巾着などのマンメイドストラクチャーが無数に存在する。それらはシーズンを通していいんだけど、ベジテーション系が育ち切る時期でもあるので、そっちも見逃さない。あとは流れ込みや流入河川。夏から秋にかけてバスがより入ってくるので、ベイトを活発に追い回すシーズンでもある。秋らしい巻き物での展開や、ベジテーション系カパーでは速い釣りや遅い釣りの両方で攻めていくといいだろう。



001 木村翔太 (キムショー)

ブレードジグ1/4オンス
(ブラックブルーパール)



9月のおすすめルアーはなんといってもブレードジグ1/4oz ブラックブルーパールです。この時期になるとスピナーベイトが炸裂することもありますが、多くのアングラーが投げていますよね。そんなスピナーベイトにスレきったバスへの食わせが効くのがブレードジグなのです。よく飛び、一定レンジをトレースしやすく、細かな振動の伝わりがよいなど、特徴はたくさんあります。ハードボトムやアシ際、杭、消波ブロックなど、比較的どんなところでも巻いてくれます。巻きスピードによってレンジが変わるので、表層からボトムまで幅広く探ってバスのレンジを探ることが重要です。トレーラーは付属のアクショントレーラーがオススメですが、飛距離やシルエット的なアピールが欲しいときは、ドライブスティック4.5インチもいでしょう。その際、アシストフックは必須ですよ!!

003 千葉恒太

O.S.Pジグ03ハンツ



9月は大きな季節の変わり目であるため、ルアーを選ぶ前にまず、季節の進行を分析することが大切です。大きく分けると旬は、夏の暑さが残っている。中旬は、朝夕に秋の気配が感じられる。下旬は、秋に向かう真只中。これに加えて秋は特にエサとなるベイトの動きも意識する必要があります。したがって、それぞれの時期を分けて考える必要があり、まとめて考えることはできません。そこで私なりにベイトを意識して考えるルアーですが、旬は、O.S.Pジグ03ハンツ9g or 11gとタイニーブリッツSR。中旬はハイピッチャー3/8オンスとブリッツEX-DR、そしてドライブクロウ5インチ。下旬はハイピッチャー1/2オンス、ブリッツMAX DR、O.S.Pジグ03ハンツ14g、そしてドライブクロウ5インチのスィミングとなります。季節が進むに連れて横の動きを意識した組み立てましょう。

005 納谷宏康

O.S.Pブレードジグ



巻き物への反応がよくなる9月の霞ヶ浦水系において、ボクのオススメは絶対にブレードジグです。霞ヶ浦水系のデカバスは連日行われるトーナメントのプレッシャーにより、メチャメチャ警戒心が強く難易度は相当高いのですが、ブレードジグを使うと、それらのバスも簡単に騙すことができます。歯切れのいい小刻みなパイプによる生々しい泳ぎと透明なブレードが賢いバスの警戒心を和らげてくれます。カバーに絡めたりするのは不向きですが、ギリギリを通さなくてもバスがすっ飛んでバイトしてきますのでバスが付きそうなストラクチャーやブレイク付近をなんとなく通すだけでOK! 先日の大会でも3匹で4490gと霞ヶ浦水系ではMAX級のウエイトを叩き出しました! ショアからも使いやすいルアーです。みなさんもぜひお試しください。

007 松村 寛

ハイピッチャー3/8オンスDW
(スパークアイスシャッド)



9月におすすめしたいルアーはたくさんあります。ひとつのもので押し通すのではなく、状況によってバスの食っているものが変わればルアーも替えます。これが大前提なのですが、あえてひとつに絞るなら、ハイピッチャー3/8oz・DWのスパークアイスシャッドですね。石積みやアシ際など水深の浅いところをひたすら投げまくる、というのが基本的な使い方です。さらに細かく言うと、ルアーが見えるか見えないかの水深を浮かせるでもなく、スローロールするわけでもなくストレートリトリブすること。結果はどれだけ広範囲を探ったか? ハイピッチャーを投げて巻くマシンになりきれたか? で決まります。日によって風の当たるエリア、当たらないエリアのどちらがいいのか分かりますので、そこはやりながら見つけていくといいでしょう。

002 斎藤真也

ドライブシャッド3.5インチの
ヘビキャロ(21g)



9月に入っても水温はまだ高い日が続きますが、真夏の最高水温より少しでも下がるとバスは横の動きに反応がよくなってきます。でも、ファーストムービング系の釣りに反応するにはまだちょっと早いですね。と言うタイミングでよく使うのが、ドライブシャッド3.5インチのヘビキャロです。使い方はロッドストックを使ったスィミングが基本ですが、ドライブシャッド特有のフォールアクションを出すためにちょっと強めに「ピョン!」とあおって、あとはワームにアクションしてもらおう釣りを試してみたりもします。大切なのはワームにアクションしてもらってことを気にかけながら、ロッドを操作するのがいいと思います。巻き物にはまだ反応が薄いときに、ぜひ試してみてください。

004 富村貴明

ブリッツシリーズ



9月からの霞ヶ浦で一番のおススメはクランクベイトのブリッツシリーズです。昨年からのトーナメントでも、キッカーフィッシュをたくさん連れてきてくれました! オリジナルのブリッツとブリッツMR、タイニーブリッツMRを頻繁に使用しております。そして今季からは間違いなく、この春先にリリースされたタイニーブリッツDRが活躍することでしょう。使用するエリアは、石積み岸堤や消波ブロック帯、河川では護岸と、護岸からブレイクまでの沈み物や旧護岸跡など、広範囲にサーチしていきます。キーとなるレンジやエリアが絞れば、それに合わせたブリッツシリーズをチョイスしてください。カラーはチャート系のハニーブルーやマッドタイガーが基本。あとは金黒などのクロイム系、ワザアリやダズラーヘビィギルなどの水に馴染むカラーを日の照り具合と水色でローテーションしています。

006 橋本卓哉 (ハシタク)

ハイピッチャー5/16オンス・3/8オンス・
1/2オンス(ヴィヴィッドパールホワイト)



9月になると暑さも落ち着き、台風や大雨が来る度に秋めいていきます。水温も徐々に下がります。出るとともに、バスは活発にベイトを追うようになります。まるで1日中フィーディングしているのかと思うくらい、ハードルアー(横の動き)へ果敢にチェイスしてきます。そんな中でのおすすめはハイピッチャーです。この時期、バスはまだシェードやストラクチャーにタイトについたりもします。根掛かりを恐れず、ストラクチャーをガンガン攻めることができ、またボラなどのベイトをイミテートする面でもハイピッチャーは優秀なのです。これほど9月の霞ヶ浦におすすめなルアーはないと思います! ハイピッチャーで攻めの釣りをしましょう!!

霞ヶ浦をホームにするO.S.Pプロスタッフ
7人のおすすめルアーを紹介!

007の 必釣アドバイス

1 ドライブシャッド (ノーシンカーリグ)

流れに集まるベイトフィッシュを自然に演じるシャッドテールワーム

「残暑の9月。流入河川が狙いどころで、バスと同じく流れに集まるベイトフィッシュを自然に演じるシャッドテールワームは主戦力です。より多くのバイトを引き出すコツは、流れを利用してテールを振らせること。上流から下流に向けてアプローチすることで、極力スローに泳がせてバイトを誘います。ゆっくり泳がせてもアクションするドライブシャッドはこの釣法に最適なシャッドテールワームですよ。ボディサイズは、ベイトタックルで快適に扱える4.5インチをメインにしていますが、見えバスのために4.5インチでひととつ食わせられないようであれば、スピニングタックルで3.5インチにするとかさり食ってくれることも多いですね。フックはT.N.Sオフセット(FINA)。4.5インチには5/0、3.5インチには1/0を合わせています。カラーはゴールデンシャイナーとスモークベッパー&コパーブレイク、そして稚アユでよく釣っていますね」



左からゴールデンシャイナー、スモークベッパー&コパーブレイク、そして稚アユ。メインは4.5インチを使用。見えバスを相手にするときは3.5インチにすることもある

2 ドライブスティック (バックスライドリグ)

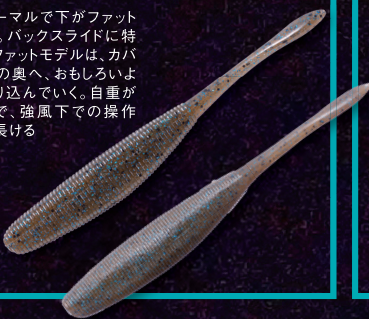
流れが利いているカバーに滑り込ませてバイトを誘発

「晴れているときは、流れの利いているエリアにある濃いシェードを集中的に狙います。カバーの下にサスペンドするバスに対しては、スローフォールでカバーの下に滑り込ませられるバックスライドワームが効果的。弱った小魚のように泳ぎながらのバックスライドフォールは未だ唯一無二で、相変わらずよく釣れています。持ち前の自発的アクションを最大限に引き出すためには、ラインを完全にフリーにして落とし込んであげることが大切です。バイトは水面上を伝うラインの動きに注目。ラインが勢いを増して引き込まれたり、違う方向に走りだしたりと、変化を感じたらアワセるか、疑わしきはラインを張って確認します。ボトムに着いてからも、軽く跳ねさせるように誘うことで、今度はエビやザリガニがキックバックして逃げるような動きを出せるのもこのワーム&リグの特徴。フォールで食わせられなかったバスも、この動きにはバクッとことも珍しくありません。O.S.P動画ではこのバックスライドについて、フックセットから実際の釣り方まで詳しく紹介しています。よろしければぜひ、チェックしてください! また、オリジナルモデルよりキャスタビリティが欲しいときや太いラインでの使用では、FATモデルもいいですね。」



上がノーマルで下がファットモデル。バックスライドに特化したファットモデルは、カバーの奥の奥へ、おもしろいように滑り込んでいく。自重があるので、強風下での操作性にも長ける

O.S.P動画「Worming Tips File_002~ドライブスティック・バックスライドセッティング編~」はこちらをチェック!!



3 ドライブクロー (テキサスリグ)

ツメを揺らし足を震わせる独自の動きでカバーを攻略

「アシヤブッシュといったカバーのシェードの中へダイレクトに入れていく釣りには、シンカーをストッパーで半固定した(1~2mmほど隙間を空けます)テキサスリグが最適です。露水系で多用するのは3インチと4インチで、シンカーウエイトは3.5g~7g。ただし、ミズヒマワリなどのマットカバーを形成する水生植物があるエリアでは、1/2オンスからときには1オンス以上の重さでマットカバーを貫通させる、いわゆる「パンチング」をすることも。この場合、シンカーは専用のストッパーで完全に固定すること。ツメを揺らしながら足を高速で震わせるフォールアクションは、フォール中から着底直後にバイトが集中しますので勝負は早い。次々と打ち込んでバイトチャンスを増やします。カラーはブルーバックシナモンや抱卵エビなど、ダーク系と透け感のあるカラーを備えるのは他のワームと一緒にですが、エビミソブラックやグリバン/チャート、ライムチャートといった、濃い、明滅、派手な存在感のあるカラーの出番が多いのも、カバーフィッシングならではのですね」

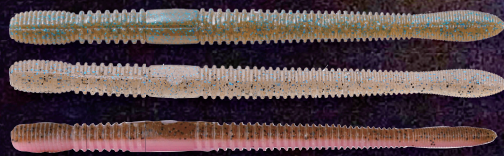


ダーク系(ブルーバックシナモン)と透け感のあるカラー(抱卵エビ)を揃えるのが基本。ほかに濃い色(エビミソブラック)や明滅効果のある色(グリバン/チャート)、さらには派手で存在感のある色(ライムチャート)もカバーフィッシングでは揃えておく心安心だ

4 ドライブクローラー (スナグレスネコリグ)

カバーにも入れていける抜群の安定感は頼れる存在

「プレッシャーの高いオカッパリでは特に、「いるのに食わない」がついてまわります。そんな中で目の前にいけば高確率で食ってくれるリグは、非常に頼りになり心強い存在です。ネコリグでもカバーの中まで探ることができるスナグレスネコリグは、こと釣ることにかけての安定感は抜群! ドライブクローラーの4.5インチと5.5インチの出番が多く、シンカーウエイトは4.5インチなら1.3g、5.5インチなら1.8gを多用しています。最近ではより素早いフォールスピードによるリアクション効果を高める狙いで、2.2g~3.5gの出番も増えています。フックは、4.5インチではN.S.Sフック(FINA)の1/0~、5.5インチには2/0を基本としていますが、より深い掛かりを優先するなら1ランク大きいフックサイズを選ぶのも手です。カラーはブルーバックシナモンやゴーストシュリンプは定番で、近年では地味&派手なグリバン/ピンクもその目立ち度と明滅によるリアクション効果なのか、実際によく釣れるので切らさないようにしています。」



定番のブルーバックシナモン(上)とゴーストシュリンプ(中)。地味と派手を融合させたグリバン/ピンク(下)もよく釣れるカラーで、ストックを切らさないよう心掛けている

5 バジnkランク

チャンスタイムをものにするサーフェスクランクの代名詞

「朝イチや日没前のチャンスタイムを効率よくチェックするのに使うのがバジnkランクです。流れの利いたシャローエリアをただ巻きで泳がせるのですが、巻きスピードはゆっくりめに基本に、ときには高速巻きも試みます。このとき、ロッドティップは水面につけるくらいに下げて巻くことが重要。高速巻きでも水面から飛び出しにくいのは、バランスのいいバジnkランクならではのですね。あと、ドライブシャッド同様に、流れを活かしてアクションさせるのも有効です。カラーはこれまでの実績ではチャートブルーバックでもっとも釣っていますが、今はよりオールマイティに使えるようリクエストしたカラー、K.O.ダズラーチャートを多用しています。」



実績ナンバーワンのチャートブルーバック(左)と、リクエストで生まれたK.O.ダズラーチャート(右)。幅広い状況に対応することコンセプトで作成してもらったカラーだ

6 ドライブホッグ (ジグヘッドリグ)

絶大な信頼を寄せる食わせのスペシャリスト

「水門やインレット、ブッシュなどの中層に浮くスレバス攻略はこれ。3.5g程度のガード付きジグヘッドにセットして、バスがいるであろう深さより上でステイさせ、細かく一点シェイク。FINAのベイビーシューティングボールのガードを少し短くカットし、さらに左右に開いて&起こして使っています(これはガード力を高めるための策)。ドライブホッグはノンソルトマテリアルなので、90度ラインアイのジグヘッドと組むことでナチュラルな水平姿勢をキープして誘えます。フラスカートのビリビリとした震えと、よく動いて水を掻き動かすバドル、そして他のパーツもよく誘ってくれます。とにかく食わせにおいてはスペシャリストで、自分の中では今年の春から食わせの最終手段的なポジションを獲得しています。カラーは……抱卵エビを溺愛です。」



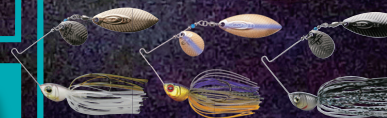
食わせの最終手段、ドライブホッグ、ジグヘッドリグで多用するが、直リグ系やダウンショットなど、さまざまなリグに対応する。全12色を揃える食わせのスペシャリストの中で、光太郎が絶大な信頼を寄せているのは抱卵エビ



7 ハイピッチャー3/8オンス

定説を覆す!! 晴天無風でもスピナーベイト

「昔から「風が吹いたらスピナーベイト」という格言がありますが、ボクの見解はむしろ、晴天無風でも食わせられる唯一のハードベイト、それがスピナーベイトです。確かに普通に投げて巻いて釣るには風はありがたいのですが、「思わず食わせてしまう」スピナーベイトならではのリアクション効果は、ピンポイントでの食わせやサイトフィッシングにも威力を発揮します。岸が変化している際や、バスを見つけたらその少し先に静かに着水させ、ブレードが回転するギリギリのスピードで引いてきます。ハイピッチャーのブレードは着水直後からの回り出しがよく、ウィローリーフでありながらしっかりとした引き抵抗があるのでスローに泳がせやすい。カラーは水質や周囲の明るさによって最適なものを選びますが、迷ったらテイステイシャッドかな。あと、ダーク系でワイルドギル、サイトフィッシングではブラックシャイナーやスティールシャッドといった、スモーク系のスカートにガンメタブレードの組み合わせがおすすめです。」



迷ったらテイステイシャッド(左)。ダーク系で持っておきたいワイルドギル(中)。さらにサイトフィッシングではスモーク系のスカートにガンメタブレードの組み合わせがベスト(右:ブラックシャイナー)

8 オリカネ虫

浮かせておくだけで自然に食ってくれる虫系

「見えるバスに対しては虫ルアーも有効です。オリカネ虫はガードが秀逸で、ガード力とフッキングのよさを現状、最も両立している虫ルアーだと思います。基本的には1本ガードでスナグレス性は十分ですが、カバーの中を集中して攻めるときには2本ガードを左右に開いて使います。開発時にオリキンに求められたのは、「浮かせておくだけでも食わせられる」こと。ラインスラッグを細かくゆする程度にシェイクして波紋を出すのは基本アクションではありますが、動かすとラインを嫌って見切るバスが多いのも実情。着水でバスに気づかせて(バスが逃げず、それでいて気づいてくれる距離感に落とすのがコツ)からは、ほっとだけでバスが自然に食ってくれるのは、オリキンのさまざまな形状を試したうえで導き出したシルエットや、脚が水面に浮くことで見切られにくくしているから。この小さなボディにオリキンのこだわりが凝縮していると言えるでしょう。」

シルエットや水面に浮いたときの足の状態は、オリキンのこだわりで「浮かせておくだけでも食わせられる」というコンセプトを極限まで突き詰めた。その結果、見えバスに気づかせてはって置くだけで食ってくれる(ルアーを入れる距離感が大事)



9月のカスミ攻略に欠かせない

光太郎厳選ルアー

カスミ水系のおかつぱりなら、光太郎に訊け!!

というわけでここでは光太郎厳選の

9月のカスミ攻略に欠かせないアイテムをご紹介します。

